2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 4 月 26 日

所属	サービス創造学部	職名	教授	氏名	今井重男
研究課題	ブライダル産業およびブライダルサービス研究				
研究キーワード	現代ブライダルサービス、 新ブライダルサービス	当年度計画に対する 達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	5. ジェンダー平等を実現しよう	10. 人や国の不平等をなくそう	12. つくる責任 つかう責任	16. 平和と公正をすべての人に	

1. 研究成果の概要

(1) 「エシカルブライダル研究」: 我が国のこれまでのブライダル諸活動では、慶事であるブライダルは贅を尽くす、すなわち豪華絢爛なることが良しとされエシカルの概念導入は受容されてこなかった。しかし、例えばコットン素材のウェディングドレスや CO2 排出を考慮した牛肉を使わない披露宴料理など、これまで当たり前とされていた慣習を見直す動きがわずかに散見されるようになった。23 年度は国内 5 例の事例収集をしたが、内容に濃淡があり決して十分とは言えない結果である。

(2) 「LGBT ブライダル研究」: 憲法第 24 条で“男女の婚姻”を規定する我が国ではあるが、姻儀礼実施の場である各種結婚式場で同性婚に対応する事例が増加している。これらは時代の趨勢、社会ニーズへの対応と考えられる。他方、結婚式場、とりわけ宗教施設（例えば、キリスト教会、神社など）では、同性婚への対応が全く進んでいないことが分かった。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

実績ありません。

【著書・論文 (査読なし)】

(1) 「フェアトレード大学認定に続く目標 -CUC エシカル学生クラブの活動から-」、今井重男・滝澤淳浩、『大学時報』No.414、p42~47、2024 年 1 月

(2) 「現代日本の新婚旅行報道 -戦後日本の『読売新聞』より-」、今井重男、『国府台経済研究』第 33 巻第 2 号、p5~22、2024 年 3 月

【学会発表等】

実績ありません。

3. 主な経費

学会年会費、関連書籍と文房具、体験型エシカル農業指導料等に使用しました。

4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

特にありません。

(本文は 2 ページ以内にまとめること)